



## 「揃えること」

運動会の練習がはじまりました。私が中学生の時は、練習はひたすら入場練習をさせられました。入場門に全校生徒が綺麗に整列して、笛の合図で1年生から順番に行進して入場します。トラックを一周して朝礼台の前に開会式の隊形に整列しました。入場曲に合わせて、「右！、左！」と足を全校生徒が揃うまで練習は続けられました。全校で15クラスありましたので、必ず、右左が揃わない生徒ができます。すると朝礼台の上に鬼のような怖い顔で立っている体育科の先生がマイク越しに叱ってきます。「3年D組、水野！足が揃っていない！」マイクの音量も大きく怒鳴るので、たぶん近所中に私の足が揃っていないことが知れ渡っていたと思います。本当に運動会の練習は恐怖でした。靴下は全員白と校則で決められていたので、白い靴下の足元が綺麗に揃っていて入場のシーンは綺麗だったと思います。トラックをまわって、朝礼台の前に来ると足踏みをしながら列を微調整していきます。全校生徒の足が揃い、全体が右・左とそろって揺れるので、それも整然としていたと思います。微調整もできて、完全に縦と横のラインが揃うと体育科の一寸木先生が笛を「ピーッピ」と鳴らします。その合図で、最後に右・左と足踏みをして静止します。そのとき右・左と最後の足音がして、グラウンドが静かになります。この瞬間の静寂が私は好きでした。

私の時代は、1964年に開かれた東京オリンピックの日本選手の入場を手本に、各学校がオリンピックをまねて指導しました。校庭には、オリンピックをイメージした万国旗が飾られていました。校舎二階から校庭のフェンスにロープを張って世界中の国旗を飾っていました。

いつの間にか、万国旗はなくなり、入場も応援席からそれぞれのペースで歩いてくるようになりました。靴下も白や黒や紺やさまざまな靴下となりました。競技する気持ちも勝負にこだわることからみんなで楽しむものになりました。学校が目標としたオリンピックもメダルの数よりも一人ひとりの選手のパフォーマンスに拍手をするような認め合う分かち合う祭典に変わってきたと思います。

今の時代、みんなで気持ちを一つにする機会がほとんどなくなっています。時にはみんなで意図的に同じ気持ちになって心を揃えてみるのも良いと思います。「体操の隊形」「応援」などみんなえまとまてやると素敵なのがあることが発見できると思います。